

「岡山支援センター」活動本格化



岡山県内で子ども食堂の普及拡大を図る一般社団法人「岡山こども食堂支援センター」(倉敷市鶴形)が発足し、活動を本格的にスタートさせた。運営者のサポートや情報発信などに当たり、地域で子どもを育む取り組みを持続可能な活動としていく。(井上建吾)

子ども食堂普及拡大を

「交流・研修・相談」「運営支援」「情報発信・啓発」などを事業の柱とする。子ども食堂の運営者や開設を目指している人たちが活動のノウハウを学び、情報を共有できる機会を設ける。企業、団体、個人からセンターに寄せられる食料品や日用品などを分配し、ボランティアスタッフを募集し派遣。交流サイト(S

継続後押し 運営者研修や情報発信

NS)を活用して子ども食堂の開催情報を発信し、高校受験を控えた生徒らに学習教材を提供するなど子育て家庭の支援にも当たる。認定NPO法人「全国こども食堂支援センター・むすびえ」(東京)や中国地方各県の子ども食堂ネットワーク組織、企業などとの連携・協働も進める。2017年に発足した子ども食堂などの連携グループ「こどもを主体とした地域づくりネットワークおかやま」を発展的に解消し昨年11月、一般社団法人を設立。川崎医療福祉大(倉敷市)の直島克樹講師が代表理事に就いた。

直島代表理事は「子ども食堂は地域全体で子どもと子育て家庭を応援し、人と人がつながる場。あって当たり前前の社会インフラとして活動が広がり、継続していけるよう後押ししたい」と話している。

登録制(無料)で参加を呼びかけ2月末現在、21団体が加盟している。初の交流会を同

岡山こども食堂支援センターの交流会で意見を交わす参加者＝岡山市北区北長瀬表町

23日、岡山市内で開催。約60人が集まり、センターの設立について説いた後、子ども食堂の魅力や資金調達、運営の方法などについて意見交換した。